

三重縣公報

第五千七十一號

昭和十九年十月十八日

水曜 日

告示

●三重縣告示第八百四十三號

昭和十九年十月十日南牟婁郡御船村長退職ノ件左ノ通認可セリ

昭和十九年十月十八日

三重縣知事 持 永 義 夫

退職年月日 職 名 氏 名
昭和十九年十月十日 南牟婁郡御船村長 谷川 幸彦

●三重縣告示第八百四十四號

特別漁業權存續期間更新ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録シタルモノ左ノ如シ

昭和十九年十月十八日

三重縣知事 持 永 義 夫

免許 免許年 漁業權者 漁場 漁業ノ 漁業時 漁獲物 漁業權
番號 月日 ノ名稱及 ノ位種類及 期 ノ種類 存續期
住所 證 名稱

●三重縣告示第八百四十五號

昭和十七年十二月三重縣告示第千四百七十四號(蔬菜及果實ノ最高販賣價格指定ノ件)中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十八日

三重縣知事 持 永 義 夫

一 果實中ゆず及くりノ行ヲ左ノ如ク改ム
ゆず及すだち 一、三〇 一、一五
くり(皮剥及茹テ含ム) 一、一五 一、三五
本表ノ卸賣業者最高販賣價格ハ容器入ノモノノ價格ニシテ採賣ノ場合
ハ一貫當五錢ヲ本表價格ヨリ控除シタル額トス
一個四匁以上ノモノハ本表價格ニ一貫當十五錢ヲ加算シタル額ニ依ル
モノトス

一、三 昭和十九年九月十九日 鈴鹿市下箕田町七五八番地有限責任下箕田漁業協同組合 鈴鹿市下箕田町第三種漁業地 自三月一日至十二月二十日 いわし 二十箇
二、三 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日
三、三 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日 同日

訓令

●三重縣訓令第四十五號

地方事務所
市役所
町村役場
縣社以下神社
縣社以下神社處務規程中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年十月十八日

三重縣知事 持 永 義 夫

第一條 神職已ムヲ得ザル場合ニ於テ本務神社所在地外ニ居住セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ縣社及三重縣護國神社ニ在リテハ知事ノ郷社以下神社ニ在リテハ地方事務所所長又ハ市長ノ認可ヲ受ケベシ

第二條 神職五日以上旅行セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ縣社及三重縣護國神社ニ在リテハ知事ノ郷社以下神社ニ在リテハ地方事務所所長又ハ市長ノ許可ヲ受ケ四日以内ノ場合ハ其ノ旨届出ツベシ

第三條 神職忌服ヲ受ケタルトキハ縣社及三重縣護國神社ニ在リテハ知事ニ郷社以下神社ニ在リテハ地方事務所所長又ハ市長ニ届出ツベシ

除服出仕ハ縣社及三重縣護國神社ニ在リテハ知事、郷社以下神社ニ在リテハ地方事務所所長又ハ市長之ヲ命ズ

第八條 前條ノ引繼ヲ了シタルトキハ其ノ都度關係者連署ヲ以テ縣社及三重縣護國神社ニ在リテハ知事ニ郷社以下神社ニ在リテハ地方事務所所長又ハ市長ニ届出ツベシ

第十條 神職缺員等ノ場合祭典アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ一時代務神職ヲ選定シ縣社及三重縣護國神社ニ於テハ知事ニ郷社以下神社ニ於テハ地方事務所所長又ハ市長ニ届出ツベシ

附 則

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト見做ス

廳中事項

●敘任辭令

昭和十九年三月十九日

休職 三重縣技手 對島 敬一郎
復職ヲ命ス

三 重 縣 技 手 對島 敬一郎
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

昭和十九年七月一日

休職 三重縣技手 對島 敬一郎
復職ヲ命ス

昭和十九年九月八日

地方事務官 武藤 謙二郎
經濟第一部長補課長ヲ命ス

同 武藤 謙二郎
三 重 縣 肥 料 分 析 所 長 事 務 取 扱 ヲ 命 ス

昭和十九年九月三十日

國府 政二郎
任 三 重 縣 技 手
給月俸五拾八圓

三 重 縣 鈴 鹿 地 方 事 務 所 勤 務 ヲ 命 ス

三 重 縣 書 記 國府 政二郎
(各 通) 同 眞田 貞次郎 米治郎

願ニ依リ三重縣書記ヲ免ス

同 岡村 忠生

縣吏員及縣ノ吏員職員休職規程第一條第一項第三號ニ依リ休職ヲ命ス

昭和十九年十月一日

三 重 縣 土 木 技 手 服部 元厚

願ニ依リ三重縣土木技手ヲ免ス

昭和十九年十月二日

給六級俸

三重縣書記ヲ命ス

依願免本官

九級俸給與

內政部軍事厚生課勤務ヲ命ス

各)三重縣警察書記生

川 治 茂

昭和十九年十月十日

(通同)

宮田 千秋

任三重縣屬

田中 巳之助

警察部警防課勤務ヲ命ス

給五級俸

土木部道路課勤務ヲ命ス

田中 巳之助

昭和十九年十月九日

中村 利顯

任三重縣屬

三 重 縣 屬 田中 巳之助

任三重縣屬

給月俸五拾七圓

依願免本官

同 落合 九郎平

內政部軍事厚生課勤務ヲ命ス

加藤 孝道

依願免本官

同 落合 九郎平

通牒照會

●地第二〇〇三號

昭和十九年十月十八日

內 政 部 長

各 地方事務所長殿
各 市町村長殿

昭和二十年年度市町村豫算編成
方針ニ關スル件

現下ノ重大時局ニ際シ速カニ國家總力ノ戰列結集ヲ完
遂シ總智總能ノ發揮ト忍苦耐乏ノ實踐トニ依リ必勝不

敗ノ態勢ヲ強化シ臨機即應以テ時艱ヲ突破スルハ軍國
當面ノ急務ナルニ鑑ミ昭和二十年年度國庫豫算ノ編成ニ
當リテハ政府施策ノ目標ハ舉ゲテ之ヲ此ノ一點ニ集中
スルコトト相成タル趣通牒アリタルニ付テハ昭和二十
年度市町村豫算ノ編成ニ當リテハ深ク思フ茲ニ致シ眞
ニ國家的見地ニ立脚スルト共ニ左記各項ニ付特ニ御留
意ノ上市町村財政ノ戰局ニ即應セル運籌ニ意ヲ用ヒラ
ルルト共ニ必勝豫算編成上萬遺憾ナキヲ期セラレ度命
ニ依リ右通牒ス

記

一、歳出ニ關スル事項

(一) 昭和二十年年度ニ於テ豫算化スベキ事項ハ既定經費ニアリテハ前年
度豫算ヲ基準トシテ現下ノ時局ニ顧ミ其ノ推移ニ即應セル改編ヲ斷
行スルト共ニ新規經費ニアリテハ防空、重要物資ノ生産増強、食糧
確保其ノ他戦力ノ維持増強上眞ニ緊要ナル經費ニシテ急速確實ニ顯
著ナル效果ヲ擧ゲ得ベキモノニ限ルコト

(二) 資金、物資及勞務ノ効率發揮ヲ最高度ナラシムルト共ニ現下ニ於
ケル之等ノ需給ノ實勢ニ鑑ミ其ノ需要量多キ施設ノ豫算化ハ之ヲ避
クルコト

(三) 行政運営ノ戰場地勢化ト既存人員ノ重點的配置ヲテ強行シ以テ
職員(雇傭人ヲ含ム)ノ増加ハ之ヲ行ハザルコト

(四) 物資及勞務需要ノ隨伴スル繼續費ノ設定ハ此ノ際原則トシテ之ヲ
避クルト共ニ既定繼續費ニアリテモ物資及勞務ノ需給狀況等ニ鑑ミ
事業完成ノ見込ナキモノ、時局ノ推移ニ伴ヒ緊急性乏シキニ至リタ
ルモノ等ノ如キハ之ヲ打切ルコト

